

銘柄紹介

ロゼッタ [6182・100 株]

11月19日 東証マザーズ市場上場

2015年10月30日(金)
更新: 9時57分
株式会社フィスコ

自動翻訳を手掛けるマザーズ小型案件

投資スタンスと初値メド

ブックビルディング参加	_____
初値投資	_____
初値メド	_____

市場の注目度	★★★
想定仮条件レンジ	640円～650円
予想PER	11.4倍(連)～11.6倍(連)
予想トレーディングレンジ 期間: 上場後1年を想定	1500円～5000円
予想PER	26.7倍(連)～88.9倍(連)

※★印は5段階評価

日程

仮条件提示	11月2日
ブックビルディング期間	11月4日～11月10日
公開価格決定	11月11日
申込期間	11月12日～11月17日
払込日	11月18日
上場日	11月19日

類似会社 3社

平均PER	109.8倍	→	6,177円
翻訳センター<2483>	21.4倍(連)	→	1,204円
フライトHD<3753>	198.1倍(連)	→	11,145円
フートレック<2468>	-1倍(連)	→	-円

(PERは10月29日現在の会社側予想ベース)

自動翻訳サービス事業、翻訳、通訳事業、企業向け語学研修事業を展開する。インターネット上の膨大な情報を言語のビッグデータとして統計解析を行うことを原理としたAI(人工知能)型の機械翻訳を研究開発しており、取引実績例として製薬・技術メーカーや国の研究開発機関が挙げられている。

10月上場案件ではGMOメディア<6180>などが軒並み公開価格の2倍以上の高初値を付けており、IPO銘柄への物色が活況を呈している。同社は公開規模がマザーズ案件としても極めて小さいうえ、自動翻訳という国策に沿ったテーマ性も初値を大きく押し上げるだろう。

公開規模については3億円弱となる見込み。株主に投資会社やベンチャーキャピタルが散見されるほか、11/19にはあんしん保証<7183>が同時上場するが、影響は軽微とみる。



新規公開株レポート

銘柄紹介



新規公開株レポート

ロゼッタ [6182・100 株] 11月19日 東証マザーズ市場上場

2015年10月30日(金)

更新: 9時57分

株式会社フィスコ

業績推移 (百万円・%)						
決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2012/2	316	—	15	—	30	—
2013/2	342	8.2%	2	-82.6%	66	118.0%
2014/2	389	13.8%	63	2187.8%	54	-17.8%
2015/2	487	25.1%	137	115.9%	140	157.1%
2016/2 予	-	—	-	—	-	—

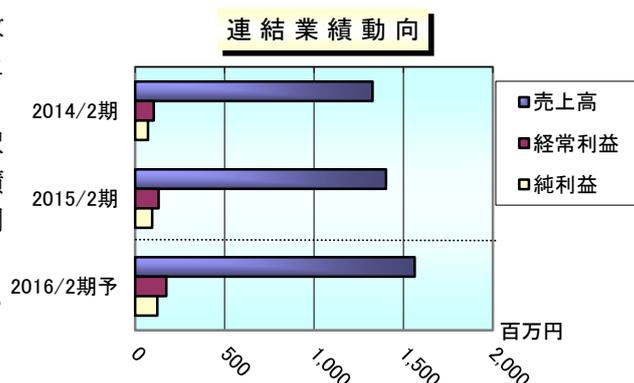
連結業績推移 (百万円・%)						
決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2014/2	1,327	—	104	—	71	—
2015/2	1,402	5.6%	131	25.2%	94	31.4%
2016/2 予	1,563	11.4%	175	33.6%	125	32.1%
2015/8 2Q	786	—	90	—	66	—
予想 EPS/配当	単独:-円 連結:56.26円(上場時発行済株式数で試算)/15.00円					

業績コメント

2016年2月期の業績は、売上高が前期比11.4%増の15.6億円、経常利益が同33.6%増の1.7億円と増収増益の見通しとなっている。

なお、通期計画に対する第2四半期末時点における進捗率は、売上高7.8億円で50.3%、経常利益0.9億円で51.4%となっている。

足元の同社グループでは、各事業とも新規顧客の開拓と既存顧客との取引が順調に推移した。MT事業(自動翻訳サービス)では、2015年3月に翻訳予約機能を追加し、訳文編集画面のレイアウトを改良した「熟考 Z4.0」をリリースした。また、ホームページの見直しによって問合せ件数が増加しており、関東・関西が中心だった営業範囲も徐々に地方へと拡大している。GLOZE事業(自動翻訳技術を援用した翻訳ツールによる受託翻訳)では、広告費の積極投下による問合せの増加、大口顧客の開拓、営業スキルの標準化を推進している。翻訳・通訳事業では、新規・既存顧客ともに引き続き売上が堅調に推移している。



銘柄紹介

ロゼッタ [6182・100 株] 11月19日 東証マザーズ市場上場

2015年10月30日(金)
更新: 9時57分
株式会社フィスコ

基本概要	
所在地	東京都中央区築地三丁目
代表者名(生年月日)	代表取締役 五石 順一(昭和39年12月25日生)
設立	昭和27年4月5日
資本金	8500万円(平成27年10月15日現在)
従業員数	新規上場会社36人 連結会社70人 (平成27年9月30日現在)
発行済株式数(上場時)	2,221,800株(予定)
公開株式数	公募231,600株 売出116,300株 (オーバーアロットメントによる売出52,100株)
公開規模	約2.6億円(OA含む)
事業内容	自動翻訳サービス事業、翻訳、通訳事業、企業向け語学研修事業

売上高構成比率 (2015/2期実績)			
品目	金額		比率
MT事業	144	百万円	10.3 %
GLOZE事業	238	百万円	17.0 %
翻訳・通訳事業	764	百万円	54.5 %
企業研修事業	254	百万円	18.2 %
合計	1,402	百万円	100.0 %

幹事証券団 (予定)			
	証券会社名	引受株数	引受シェア
主幹事証券	SMBC日興証券(株)	未定	未定
幹事証券	みずほ証券(株)	未定	未定
幹事証券	(株)SBI証券	未定	未定
幹事証券	エース証券(株)	未定	未定
幹事証券	岩井コスモ証券(株)	未定	未定
幹事証券	いちよし証券(株)	未定	未定
幹事証券	SMBCフレンド証券(株)	未定	未定
幹事証券	マネックス証券(株)	未定	未定
幹事証券	藍澤證券(株)	未定	未定
幹事証券	水戸証券(株)	未定	未定

銘柄紹介

ロゼッタ [6182・100 株]

11月19日 東証マザーズ市場上場

2015年10月30日(金)

更新: 9時57分

株式会社フィスコ



新規公開株レポート

大株主上位10位

順位	株主名	保有株数	保有シェア
1	五石 順一	642,000 株	28.41 %
2	浮舟 邦彦	255,400 株	11.30 %
3	株式会社ドリームインキュベータ	134,500 株	5.95 %
4	ジェイコブソン 陽子	120,000 株	5.31 %
5	ジャパン・アジア・リーダーズ1号投資事業有限責任組合	100,000 株	4.42 %
6	諏谷 隆志	65,000 株	2.88 %
7	秀島 博規	52,000 株	2.30 %
8	株式会社翻訳センター	50,000 株	2.21 %
8	滋慶1号投資事業有限責任組合	50,000 株	2.21 %
8	先端技術産業創造投資事業有限責任組合	50,000 株	2.21 %
合計		1,518,900 株	67.20 %

その他情報

手取金の使途	設備投資資金(ソフトウェアの開発費)として、事業拡大のための優秀な人材の確保等を目的とした採用活動費及びその人件費として、並びにソフトウェアの開発に応じて必要になるシステム保守費用として充当し、残額については、採用活動費及びその人件費の一部として充当する予定。	
関係会社	株式会社グローヴァ (連結子会社) 翻訳・通訳事業 株式会社海外放送センター (連結子会社) 企業研修事業	
VC売却可能分(推定)	2社 46,000株(売出し・保有期間などの制限があるもの以外)	
直近有償第三者割当	年月日	2014年7月18日
	割当先	石村 俊一、秀島 博規、諏谷 隆志、他9名
	発行価格	500円 ※株式分割を考慮済み

ロゼッタ [6182・100 株] 11月19日 東証マザーズ市場上場

2015年10月30日(金)
更新: 9時57分
株式会社フィスコ

銘柄紹介

同社グループは、同社と100%子会社3社から構成されている。

事業は、AI(人工知能)型の機械翻訳(MT: Machine Translation)の研究開発を行う「MT事業」、従来型の人間(翻訳者)による翻訳業務を受託する「翻訳・通訳事業」、両事業の中間形態としてMT事業のIT技術を援用した翻訳支援(CAT: Computer Aided Translation)ツールを活用して人間(翻訳者)による翻訳業務を行う「GLOZE事業」、企業等に講師等を派遣して語学研修サービスを行う「企業研修事業」から構成されている。

人間(翻訳者)による翻訳サービスからAI型の機械翻訳サービスまでをグループ内でカバーする体制をとっている点が同社グループの特徴となっている。

(1) MT事業

インターネット上の膨大な情報を言語のビッグデータとして統計解析を行うことを原理としたAI(人工知能)型の機械翻訳(MT: Machine Translation)を研究開発しており、機械翻訳機能をインターネットを通じ、顧客に提供するサービス型ソフトウェア(SaaS: Software as a Service)として販売している。

(2) GLOZE事業

顧客からの依頼を受け、人間(翻訳者)による翻訳において、同社独自の統計型翻訳支援(CAT: Computer Aided Translation)ツール「究極Z」を活用して、品質の標準化、コストダウン、納期短縮を図る受託翻訳サービスである。翻訳作業は社外の翻訳者が実施する。社内では翻訳原稿の内容に応じた翻訳者の手配や翻訳内容の品質管理を行う。主に、医薬、IT、機械、電気電

子、法務、金融分野等、用語や類似文の訳文統一が重要となる分野の産業翻訳を対象としている。翻訳に加えて、ローカライズ、DTP、印刷などの周辺サービスも提供。主な収益は、受託した翻訳業務の委託料である。料金は、翻訳原稿ごとに言語、分野、翻訳ボリューム、指定納期等に応じて都度見積りを行い、納品に際して業務委託料を受領する。

(3) 翻訳・通訳事業

顧客からの案件依頼を受け、人間(翻訳者)による翻訳及び通訳サービスを提供する事業である。主に、IT、機械、電気電子、特許、環境、法務、金融等の専門分野の産業翻訳を対象にしている。翻訳作業は社外の翻訳者が実施する。社内では翻訳原稿の内容に応じた翻訳者の手配や翻訳内容の品質管理を行う。翻訳に加えてローカライズ、DTP、印刷などの周辺サービスも提供している。

(4) 企業研修事業

企業に対して、英語教育研修、中国語教育研修、多様性研修サービスを提供する事業である。研修形態は、通信教育と講師による対面レッスンがあり、学習者の学習目的とレベルに応じて適した教材、カリキュラム、講師を提供する。また、海外赴任者向けには、語学研修に加えて、異なる文化を持つ人との交流ノウハウに焦点をあてた多様性研修も行っている。

ロゼッタ [6182・100 株]
11月19日 東証マザーズ市場上場

2015年10月30日(金)
更新: 9時57分
株式会社フィスコ

投資のポイント

8月以降の市況悪化を受けて、8月後半から9月にかけてマザーズ上場案件の初値は抑えられてきた。ただ、10月案件ではGMOメディア<6180>、パートナーエージェント<6181>、バルニバービ<3418>が軒並み公開価格の2倍以上の高初値を付けており、IPO銘柄物色が活況を呈している。さらに、同社は公開規模がマザーズ案件としても極めて小さいうえ、自動翻訳という国策に沿ったテーマ性も初値を大きく押し上げるだろう。

同社は、インターネット上の膨大な情報を言語のビッグデータとして統計解析を行うことを原理としたAI(人工知能)型の機械翻訳(MT: Machine Translation)を研究開発しており、機械翻訳機能をインターネットを通じて顧客に提供するサービス型ソフトウェア(SaaS)「熟考」「熟考Z」として販売している。取引実績例として塩野義製薬<4507>など製薬・技術メーカーや、情報通信研究機構など国の研究開発機関が挙げられており、買い材料視されそう。また、子会社では翻訳・通訳事業や企業研修事業も手掛けている。

業績面について、2016年2月期は売上高が前期比11.4%増の15.6億円、経常利益が同33.6%増の1.7億円と増収増益の見通しとなっている。想定仮条件水準の今期予想PERは13~15倍程度で、翻訳業界最大手の翻訳センター<2483>と比較して割安感がある。また、自動翻訳関連というテーマ性から、更なる高バリュエーションも許容される可能性がある。

公開規模については3億円弱となる見

込み。株主には投資会社やベンチャーキャピタルが散見されるが、警戒視される水準ではない。また、11/19にはあんしん保証<7183>が同時上場するが、2社とも公開規模3億円程度の小型案件であるうえ、前述のとおりロゼッタはテーマ性から人気化が見込まれるため、初値買い資金分散の影響は軽微とみる。

銘柄紹介

ロゼッタ [6182・100 株] 11月19日 東証マザーズ市場上場

2015年10月30日(金)
更新: 9時57分
株式会社フィスコ

投資スタンスの見方

Aggressive (アグレッシブ)	積極的参加	投資収益率 100%以上が見込まれる案件
Active (アクティブ)	やや積極的参加	投資収益率 50%以上が見込まれる案件
Passive+ (パッシブ・プラス)	やや消極的参加	投資収益率 20~50%未満が見込まれる案件
Passive- (パッシブ・マイナス)	消極的参加	投資収益率 0~20%未満であり、マイナスの可能性がある案件
Negative (ネガティブ)	参加見送り	投資収益率がマイナスになる可能性が予想される案件

《 重要事項(ディスクレマー) 》

株式会社フィスコ(以下[フィスコ]という)は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

掲載される情報はフィスコが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコが作成・表示したものです。その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものではありません。

本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

フィスコが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少する事もあり、価値を失う場合があります。

本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大する事を保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

フィスコおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ



■ 本資料のご留意事項

本資料は投資判断の参考としての情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。銘柄の選択、投資判断の最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料は、SBI証券が、株式会社フィスコが信頼できると判断して作成したレポートを有償で提供を受けておりますが、その正確性、安全性等について保証するものではありません。本資料に掲載された意見は、作成日における判断であり、予告なしに変更される場合があります。本資料の著作権、知的所有権等一切の権利は株式会社フィスコに帰属しますので、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

■ 手数料およびリスク等について

国内株式取引の手数料

・株式取引にあたっては、所定の手数料がかかります（手数料はお客様の取引コース、取引チャネル、取引プランや売買代金等により異なることから記載しておりません）。詳しくは、SBI証券 WEB サイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は上場有価証券等書面等をご確認ください。

■ 国内株式取引のリスク情報について

・国内株式の取引は、株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。
・信用取引は、少額の委託保証金で多額の取引を行うことができることから、時として多額の損失が発生する可能性を有しています。
・信用取引の対象となっている株価の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、その損失の額が、差入れた委託保証金額を上回るおそれがあります。

■ 留意点

・SBI証券が保有する株式等や主幹事担当会社の重要な開示事項（利益相反関係等）についてはSBI証券WEBサイト（http://search.sbisecc.co.jp/v2/popwin/info/home/pop690_kaiji.html）をご確認ください。または、カスタマーサービスセンター（0120-104-214（携帯電話・PHSからは03-5562-7530））までお問い合わせください。
・取引コースや商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、ウェブサイト、等をよくご確認ください。または最寄の支店までお問い合わせください。
・最終的な投資判断は目論見書の内容をご確認ください。目論見書は当該銘柄の取扱証券会社のホームページ等で入手いただけます。

商号等： 株式会社 SBI証券 金融商品取引業者
登録番号： 関東財務局長（金商）第44号
加入協会： 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、
一般社団法人 第二種金融商品取引業協会